

お知らせ

愛媛大学医学部附属病院では、医学・医療の発展のために様々な研究を行っています。その中で今回示します以下の研究では、患者さんのカルテの記録や画像のデータ、病理検査の結果を使用します。

この研究の内容を詳しく知りたい方や、カルテなどの情報を利用することをご了解いただけない方は、下記【お問い合わせ先】までご連絡下さい。

【研究課題名】

当院で術前化学療法を施行した乳癌患者の超音波検査を用いた効果予測因子の検討

【研究機関】 愛媛大学医学部 肝胆膵・乳腺外科学

【研究責任者】 亀井 義明（肝胆膵・乳腺外科学 講師）

【研究の目的】

手術前に抗がん剤治療(術前化学療法と言います)を施行し非常に良好な治療効果を得られた場合は予後が良好であることが知られています。また、治療効果が不十分であれば、手術後に別の抗がん剤を使用することで予後を改善するという研究結果も出てきています。このため抗がん剤治療の効果を適切に予測することが可能となれば、それぞれの患者さんの治療効果に合わせた治療方法を決定できる可能性があります。

また、効果判定における評価基準として主なものに **RECIST** という病変の最大径にて評価を行う方法がありますが、最大径はあまり変わらないものの、その他の径は縮小し腫瘍量自体が減少している場合もあります。

本研究では超音波検査による術前化学療法の治療効果判定の適切なタイミングおよび評価方法を検討することを目的としています。

【研究の方法】

(対象となる患者さん) 愛媛大学医学部附属病院にて 2011 年 10 月から 2020 年 4 月までに術前化学療法として標準的な化学療法(アンスラサイクリンレジメン後にタキサンレジメンを施行)を完遂した乳癌患者さんの内、治療開始前・治療中・治療後に超音波検査にて治療効果判定を施行した患者さん。

(利用するカルテ情報) 性別、年齢、発症時期、合併症、既往歴、身体所見、

血液検査データ、画像検査データ、治療状況 等

【個人情報の取り扱い】

収集した情報は名前、住所など患者さんを直接特定できる情報を除いて匿名化いたします。個人を特定できるような情報が外に漏れることはありません。また、研究結果は学術雑誌や学会等で発表される予定ですが、発表内容に個人を特定できる情報は一切含まれません。

【情報管理責任者】 肝胆膵・乳腺外科学 医員 野田令菜

さらに詳しい本研究の内容をお知りになりたい場合は、**【お問い合わせ先】**までご連絡ください。他の患者さんの個人情報の保護、および、知的財産の保護等に支障がない範囲でお答えいたします。

【お問い合わせ先】

愛媛大学医学部附属病院乳腺センター センター長 亀井 義明

〒791-0295 愛媛県東温市志津川

電話番号：089-960-5327